

名 称	大館市子ども支援センター
所 在 地	〒017-0865 秋田県大館市城西町8-1
連 絡 先	TEL : 0186-43-6153 FAX : 0186-43-6153

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 大館市 83,666人（平成19年2月1日現在）

秋田・青森・岩手3県の北東北の中心部に位置する大館市は、広域間の交通の要衝として古くから天然秋田杉をはじめとする豊かな大自然に恵まれ、農林業や鉱業と共に伝統工芸や文化的遺産、観光に適した景勝地など豊富な資源を有し栄えてきた。

しかし、近年地場産業の衰退や農林業の低迷、進む少子高齢化、地球規模の問題を抱える環境問題などが、将来に向けての一大転換を迫っている。そこで、本市はこれらに対応すべく様々な対策を講じ、21世紀を明るくものとするための努力を続けている。具体的な施策として、高等教育機関の設置、世界最大級の多目的木造ドーム（大館樹海ドーム）の活用、県北の福祉施設の要となる老人福祉総合エリアの整備、米代川流域地方拠点都市地域としての整備等、更なる市政発展の基礎づくりを市民とともに、人と自然と産業が融和したまちづくりを推進している。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「おおだてマナビィ課外授業 達人講座」

“おおだてマナビィ”事業推進方針

子どもたちの豊かな人間性、主体性、社会性、責任感などを備えた人間形成を図っていくために、学校、家庭、地域社会・団体、行政などが連携・協力するとともに、それぞれが子どもの教育に責任を持ち適切に役割分担しながら健全育成等に取り組んでいく。また連携・協力の拠点となる施設を整備していく。

おおだてマナビィ課外授業「達人講座」事業の実施目的

子どもたちの健全育成と豊かな心を育てるために、芸術文化やスポーツなどについて、その道の専門家が本物の芸術文化、スポーツを子どもたちに指導する入門講座を開講する。あわせて大館市の芸術文化とスポーツの振興と各団体の後継者育成を図ることを目的とする。

1. 講座内容：初歩からのスタートとし、小・中学生レベルで学べる内容とする。
2. 参加対象：小・中学生。講座によっては親子での参加も認める。
3. 実施方法：講座は団体・個人が自ら企画し、各団体・個人が活動している教室等または

市の施設等を使用して行う。

4. 開 講 日：月 1 ～ 4 回程度の開講で、学校放課後、土・日・祝日、冬休み・春休み・夏休みに開講する。
5. 参加費用：受講料（無料か定額とする）＋材料費

おおだてマナビィ課外授業「達人講座」の開講の流れ

1. 達人を募集し、参加申込者と詳細な打合せをし、達人登録をし、達人講座一覧表の作成。
2. 募集要項を作成し、ポスターを印刷会社に依頼。
3. 参加者募集 小学生 13 校で 3, 427 人・中学生 9 校で 418 人全員にポスター配布。
4. 募集の結果を達人に報告し開講の確認をとる。応募者が少数の場合は、達人に相談。
5. 応募者に“参加受付通知”発送。応募者不足の場合には“中止文章”を発送。
6. 開講式・講座の開始。（講座によって終講日はまちまち）

以上が達人講座の流れであるが、17年度は27講座で募集した結果、応募者なしが2講座のため、25講座で開講し、参加人数は開講時、延べ416人となった。

参加人数の多い講座のベスト10は、ヒップホップダンス49人、曲げわっぱ太鼓42人、サッカー39人、毛筆・硬筆書道38人、親子料理教室28組、ソフトテニスとソフトバレー各26人、将棋25人、茶道裏千家21人、陶芸19人である。

一人で3～4講座を受講する者が毎年数名いる。

開講し、1か月過ぎた頃には辞めたい又は私も入りたいという児童・生徒が現れる。

募集対象が小・中学生であるが、小学生がほとんどで中学生は数名である。中学生は部活の関係で参加したくても出来ないし、応募したとしても途中で辞めることになる。途中辞退者は1年間で十数人になっている。

コーディネートの実際

開講しての問題点

平成16年度から始めて2年目であるが、一番の問題点は“無断欠席”である。人数が多くて材料費がかからない講座はいいが、料理・ビーズアクセサリー・お茶・陶芸・もの作り等の場合には、達人が材料を仕入れてくるので無断欠席をされると材料代がその人数分、達人の負担になる。欠席したので材料費をくださいとは言えず、達人には大変迷惑をかけている。

応募者に参加受付通知を出す時の文章には“欠席の場合には必ず連絡のこと”と朱書きしており、達人の電話番号・子ども支援センターの電話番号・市教育委員会の担当者の電話番号を書いているが守ってくれず困っている。

また、達人の都合により開講日直前に休講になる、または会場変更等の場合、受講者に電話連絡する時に、核家族化・両親共働きの家庭が多い為に日中の連絡が出来ないことが多く、郵便で文書を発送しなければならず経費がかかる。

今後の取組への課題

前年度に講座を開設してくれた達人に翌年には断られる場合があるので、常に新しい達人を探して来年度の協力をお願いしておかなければならないが、ボランティアでお願いをするのには限界がある。

又、市の“生涯学習フェスティバル”へ生け花講座の参加者の作品を展示したことで、その子の家族・親戚・友人等が見に来てくれて本人が大喜びしている姿を見た時には、もっと発表の場を設定することが大事なことであったと感じた。



60分講座
大館曲げわっぱ太鼓学

各地の委員会や個人で、曲げわっぱ太鼓の成績を取った者や、その名を全県に広げたいという「大館曲げわっぱ太鼓」を学ぼうと、大館内の小学生60人が5日、同市池内の太鼓道場を訪れ、メンバーから未だ太鼓の打ち方などの指導を受けた。子ども健全育成を目的に、市教育委員会が小中学を対象に開いているおぼろマニエ外来授業「達人講座」の一環である。

大館曲げわっぱ太鼓に挑戦する子どもたち

このおぼろマニエ外来授業「達人講座」の一環として、市教育委員会が小中学を対象に開いているおぼろマニエ外来授業「達人講座」の一環である。

曲げわっぱ太鼓の田畑準備が完了する。準備が完了する田畑では、子どもたちが太鼓の打ち方を学ぶ。田畑の準備が完了する。準備が完了する田畑では、子どもたちが太鼓の打ち方を学ぶ。

大館市教育委員会 企画

2004年(平成16年)6月6日(日曜日) 北鹿新聞



鳥海会館でお茶会
大館

立派にお点前を披露

この日は、けいこの成果を披露する茶会を開催。専ら茶席では、ゆかた姿の子どもたちが学んだ作法を一つひとつ確認しながら丁寧にお点前を披露。かわいらしい姿に来賓者も目を細めて見入っていた。

藤原響音さん(城南小1年)は「みんなが見ていて緊張したけど、音がいつはいたって上手にできた。お茶のけいこはとても楽しかった」と振り返った。

達人講座の小学生

この日は、けいこの成果を披露する茶会を開催。専ら茶席では、ゆかた姿の子どもたちが学んだ作法を一つひとつ確認しながら丁寧にお点前を披露。かわいらしい姿に来賓者も目を細めて見入っていた。

藤原響音さん(城南小1年)は「みんなが見ていて緊張したけど、音がいつはいたって上手にできた。お茶のけいこはとても楽しかった」と振り返った。

大館市教育委員会 企画

2005年(平成17年)8月28日(日曜日) 北鹿新聞

執筆者職・氏名：大館市子ども支援センター コーディネーター 神林 英樹